

しまねの複式指導充実のために

このリーフレットでは、令和5年度複式教育推進指定校事業の推進指定校の取組を中心に複式学級指導の充実のための事例等を紹介します。

◆複式学級の編制に係る法律等

児童又は生徒の数が著しく少ない場合、数学年の児童又は生徒を1学級に編制することができます。そのように編制した学級を「複式学級」といいます。

(公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律 第3条)

1学級の児童又は生徒の数の基準は、法律に示す数を標準として、都道府県の教育委員会が定めることとされています。

(公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律 第3条2)

そこで島根県教育委員会では、複式学級の児童生徒数について独自に以下のように定めています。

小学校

複式学級の児童数は16人（第1学年を含む学級は8人）すべて1・2年、3・4年、5・6年の組合せで編制する。

中学校

特別支援学級を除き、生徒数が8人以下であってもすべて「単式学級」として編制する。

◆島根県の現状

複式学級を有する学校の割合
令和5年4月1日現在



※学校の位置はおおよその位置を示しています。

島根県全体で、58校、全体の約3割が複式学級を有する小学校です。

	教育事務所管内別					島根県全体
	松江管内	出雲管内	浜田管内	益田管内	隠岐管内	
●複式学級を有する小学校数(校)	8	16	17	14	3	58
小学校総数(校) (義務教育学校前期課程を含む)	51	63	49	24	11	198
複式学級を有する小学校の割合(%)	15.7	25.4	34.7	58.3	27.3	29.3



令和5年度 複式教育推進指定校事業

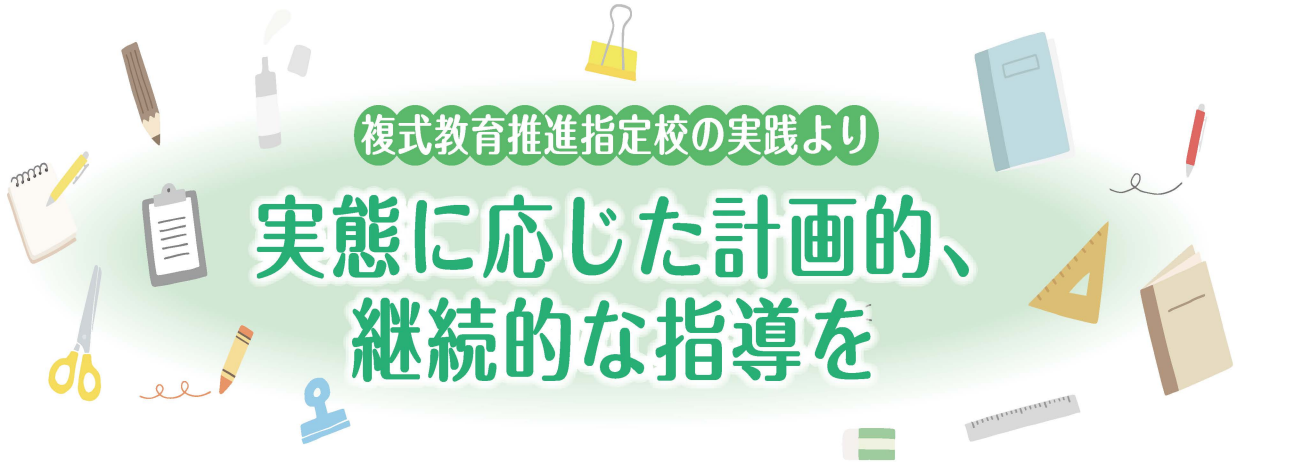


複式教育推進指定校事業の目的

複式教育の充実を図るために、県内の小学校に推進指定校を設定して、効果的な学年別指導のあり方を研究するとともに、その成果の普及を図り、教員の指導力向上に資する。

令和5年度推進指定校

安来市立布部小学校 ・ 飯南町立志々小学校 ・ 邑南町立口羽小学校



複式教育推進指定校の実践より

実態に応じた計画的、 継続的な指導を

○間接指導につながる直接指導 (布部小)



子どもの考えを丁寧に尋ね、表し方をいっしょに考える

児童の実態を踏まえ、目標を達成する児童の姿をイメージして、既習事項を可視化したり、図や絵で示すことを繰り返し行ったりすることを通じた取組を行いました。

児童は、提示された課題を受けて既習事項を振り返りながら、図や絵を用いて、対話しながら学習を進めていました。

意図的な積み重ねが学習スタイルの確立につながった効果的な事例です。



○明確な意図をもち、積み重ねを大切にした間接指導 (口羽小)

教師がモデルになってガイド学習体験

間接指導時に、子どもたちの動きをみて、つい直接指導を行いがちです。

口羽小学校では、「この間接指導でどんな力をつけたのか」を明確にして、間接指導を実施しました。

授業を通して、子どもたちにどのような力を育むのかを職員が共通理解を図り、そのためにどのような手立てをとるのか明確にすることが大切です。

間接指導の場は、児童の自発的な学習態度を育てるための絶好の指導の場です。

日々の学習から、間接指導の時間の学び方について、「ガイド学習の進め方」などを児童に示すとともに、教師がモデルになるなど繰り返し実践を積み重ねました。

間接指導の充実には、明確な意図をもった指導の積み重ねが大切です。



○ガイド学習で育てたい力を明確にした間接指導 (志々小)

ガイド役だけでなくフォロワー役も共に育成を図る

ガイド学習は、間接指導をより充実させるために考え出された学習の形態の1つです。ガイド学習を通して子どもたちにつけたい力を明確にし、実践することが大切です。

ガイド学習の手引きを示すなどガイド役の児童への指導・支援を充実させていました。

また、フォロワー役の児童への指導・支援を充実させ、ガイド役の児童とフォロワー役の児童が一体となって学習に取り組めるように工夫していました。



○実態を活かした「まとめ」 (志々小)



学年1名の「まとめ」の工夫

複式学級では、在籍児童数の少なさをデメリットと捉えられることがあります。

志々小学校では、5年生1名、6年生4名で学んでいます。

5年生の学びを深めるために、学習の終末にまとめとして6年生に説明する時間を設定しました。

自信をもって説明し、6年生が自然と拍手をして受け止めていました。この取組は5年生の児童の自分の言葉で説明しきる力や自己肯定感を高めると同時に、温かい支持的な学級風土づくりにつながります。学級の実態とつけたい力を明確にとらえた素晴らしい取組です。



○子どもが進め、まとめるガイド学習 (布部小)



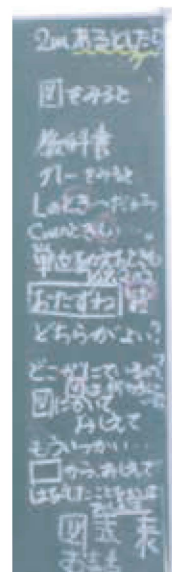
ガイド学習が身についてきた学年には、 自分たちで進め教科書を超える内容を学習した体験

学年別指導において「どちらの学年もまんべんなく」と捉えて指導することが多いですが、本実践では担任の明確な意図のもと、片方の学年に集中して支援する展開がみられました。

集中的に支援を行うと決めた学年では、直接指導を行うのではなく、あくまでも同時間接指導を大切に、児童役になり切った関わりを徹底しました。

もう一方の学年では、既習事項や積み重ねてきた学びのスタイルをもとに、ガイド役とフォロワー役がお互いに声を掛け合い、学習を進めました。疑問に思ったことはお互いに尋ね合い、困っている児童には声をかけることができていました。

学習の積み重ねにより、担任の直接的な指導がなくても主体的に学びを深めていました。

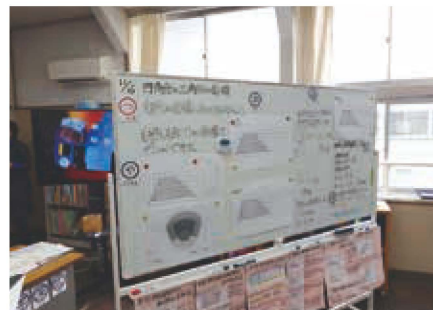
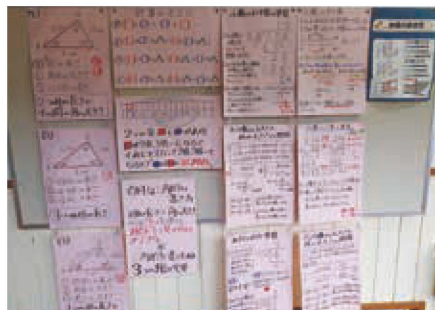


○学びを振り返り、既習事項を活かすことができる環境づくり (志々小)



ガイド学習を通して間接指導が充実したものになるように、児童が解決の見通しを得られる支援や学習環境づくりをすることは大切なポイントです。

志々小学校では、既習事項を確認するための掲示物を作成したり、自分の考えを全体で共有するためにICTを活用したりして、学習環境づくりに配慮していました。複式学級のみならず、単式学級でも大いに参考になる点です。



○明日への学びへの意欲をもたせる教師の評価 (布部小、志々小、口羽小)

間接指導の時間は、児童にとっては「担任の先生がいない時間」です。その中で児童は、自ら学んだり、協働して学んだりしています。

間接指導時に丁寧に子どもたちの様子を観察し、直接指導の場面、学習のまとめの場面などで評価することを日々の授業において、繰り返し行いました。

学習に向かう意欲、図や絵を用いた課題解決の過程、ガイド学習時のきらりと光る点など、児童は日々の授業をとおして大きく成長しています。その成長に気づき、認め、褒め、育てようと3校の職員は意識して取り組みました。

この職員の丁寧な観察に基づいた、温かい言葉の評価を通して、子どもたちは学びへの自信や意欲をもつことにつながります。



まずは児童の実態把握から

3校の取組は、以下に示すように丁寧な実態把握を基に、つきたい力を明確にし、そのために具体的に何を
するのかを大切にしたい取組です。この点は、複式学級、単式学級の違いはなく、教育の基本となります。児童の
実態把握には、教師の日々の観察が欠かせません。観察したことを基に児童のことを語り合う職員集団である
ことが求められます。

安来市立布部小学校

児童の実態

- 仲が良く、素直で、自分から動こうとする。
- 型にはまったことは得意。
- 考えが広がっていかない。
- 他者の考えを基に、自分の考えを再思考することができにくい。

職員の違い

- 一人一人の思いや願い、考えを大切にしたい学級を実現したい。
- お互いが思いや願い、考えを表現し、受け止め、大事にしながら再構築してほしい。

育成をめざす
子どもの姿

自分の考えを大切にし…周りの意見を大切に、再思考し、より一層自分の考えを大切に。
主体的に学び……問いに対して、先を見通しながら、進んで解決する。
表現する子ども……自分の考えを伝えたり、書いたりするなど様々な表現しようとする。

具体的な取組

学びのつながり……既習事項を活用し繰り返す学び 目標達成した児童の姿をイメージした授業づくり
活動のつながり……学習活動に共通したスタイルをもたせる
他者とのつながり……対話し、協働しながら自分の考えを深める学習づくり

飯南町立志々小学校

児童の実態

- 素直で課題に真面目に取り組むことができる。
- 友達と協力し教え合い、助け合うことができる。
- 自分の考えを伝えるだけにとどまってしまう。
- 考えを練りあげるなどの学びにつながりにくい。

職員の違い

- 自分から課題を見つけ取り組んでほしい。
- 考えを伝えあって主体的に学び合ってほしい。

育成をめざす
子どもの姿

かしこく……筋道を立てて、わかりやすく説明ができる子
なかよく……友達と交流することを通して、考えを練り上げる子ども
たくましく……課題に向かって最後まで粘り強く取り組む子ども

具体的な取組

複式学級の特徴を生かした指導方法の工夫、学習環境づくり…ガイド学習、ICT活用・掲示物の支援等
数学的な見方・考え方を働かせるための手立ての工夫…既習事項との関連、図や言葉を用いた説明等

邑南町立口羽小学校

児童の実態

- コツコツ学習を進める真面目さ。
- 意見交流の際に遠慮がちになってしまう。
- 複数の考えが出にくい。
- 課題に対する自分の考えをもつことに支えがける。

職員の違い

- 自分の言葉で表現する力をつけてほしい。
- 人が話す内容を「うんうん」と理解しながら聞いてほしい。

育成をめざす
子どもの姿

知識として得た語彙や読む力を基にした
「自分の言葉で適切に表現する力」「人の話を理解しながら聞く力」

具体的な取組

わたりの授業における間接指導の場面に注目する。
児童が主体的に話し合いながら学習を進める中で上記の力を育めるようにする。

各校で育てたい資質・能力を明確にした教育課程の編成を

複式学級での教育課程の編成方法は様々ありますが、大きくは以下の2通りになります。

< 学年別指導 >

2つの学年に対して、直接指導と間接指導を行いながら、異単元の内容を指導する方法。

長所

- ・通常のカリキュラムで学習できるので、教科における内容の系統性をふまえた指導ができる。
- ・転出入児童に対する学年を超えた内容についての未学習への対応の必要がない。
- ・特に学年による差の大きい1・2年生において指導がしやすい。

短所

- ・直接指導と間接指導の組み合わせとなり、指導が複雑で難しい。
- ・2学年分の教材研究や学習の準備が必要となる。

< A・B年度方式 >

低・中・高、それぞれ2学年分の内容を2年間に配当し、目標を達成する同単元同内容により指導する方法。

長所

- ・異学年による多くの人数で学ぶことで、多様な見方や考え方が出る可能性が高い。
- ・個に応じた指導をする時間を生み出しやすい。

短所

- ・系統的な内容の指導、特に技術的な面の指導が難しい。
- ・下学年の児童の能力差や経験差を埋める工夫が必要である。
- ・転出入児童に対する学年を超えた内容についての未学習への対応が必要である。

近年は児童数の減少等により、単式学級から複式学級になったり、欠学年が生じて単式学級になったりすることが多く見られます。このように単式・複式を繰り返す学級では、教科によっては学年別による指導が必要となってきています。

子どもたちや学級、地域の実態を把握し、各指導類型の長所、短所をふまえたうえで、「子どもたちにどのような資質・能力を育みたいか」を明確にし、年間指導計画を作成し、子どもたちの成長につながる教育課程を編成することが求められます。

複式学級指導の手引き(令和元年度改訂版) P13「第5章 複式学級の指導計画」を参照

複式学級指導・単式学級指導の充実に活用ください

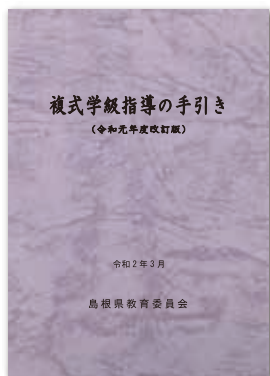
県教育委員会では、複式教育総合支援事業を実施し、指定校による研究実践、先進地視察等を行っています。複式学級の指導は、「主体的に学習に取り組む態度を養い、学力育成につながる可能性に満ちた指導である」と考えており、今後も充実を図りたいと考えています。

以下に示す県教育委員会発行資料やWebサイト、研修などを、複式学級の指導の充実だけでなく、単式学級の指導の充実にも活用ください。

複式学級指導の手引き(令和元年度改訂版)



上記、二次元コードよりダウンロード可能です。



島根県教育センター 研修・出前講座

- 複式学級新任担当者研修
令和6年6月6日(木) オンライン
- 出前講座 令和6年度 実施予定
研修や出前講座をぜひご活用ください。



複式学級指導の情報は「しまねの教育情報Web EIOS」から

EIOSには、複式学級指導に係る情報を集約して掲載しています。また、先進地の実践事例についても掲載していますので参考にしてください。

EIOSへき地・複式教育のページは右記二次元コードからアクセス可能です。

